

台風なんかどこ吹く風、被災者そっちのけで内閣改造

台風15号が横浜を通ったのは9月9日(月)未明。丘の上の我が家は、家全体が揺すぶられ、目の前の電線はいつ切れるかと思う位大揺れ。

千葉では5日も電力が回復しない所もあるという。

内閣改造に腐心

火曜の夕方、停電で千葉の93歳の女性が熱中症で亡くなったニュースが流れた。その頃、知人からの電話で拙宅からほんの数100mの地域がその頃まで停電していた事を知った。

腹が立つのは安倍自公政権の内閣改造。つまり、与党内の力関係の変化を考え、勢力維持の為、大臣入れ替え。大災害の最中に防災担当大臣も交代。本来は政府が全国各電力会社に対策チームの派遣を求めるべきだろう。

知人に様子を聞くべき

この停電の間、お年寄りや赤ちゃんのいる家庭ではどうしたのだろう。せめて、知り合いに連絡を取って、停電で困っていないか問い合わせるべきだったと悔やまれる。

一、二晩であれば、エアコンを効かせてお年寄り、赤ちゃんに我が家に避難して貰えば良かったと思う。

他地域からの電力会社スタッフの宿泊場所として自衛隊の設備を提供したら良いと思う。猛暑の中、入浴もままならない。一機百数十億のF35を買う金で、大型コンテナに入浴設備を整えて備え、こういうとき被災地に展開したら良かったのではないか。

あなたはどう思われますか？

海底の丘から

北海道富良野市麓郷ろくこう

二〇一九年六月



2019. 6. 23 徹

北海道の旭川の旭山動物園は人気の観光地。大規模の無料駐車場は動物園でも標高の高い東門近く。そこに入ろうと開園前に行く、駐車場のすぐ上の「展望の良い海底の丘にどうぞ」と誘われる。ちよつと登るだけで「海底の丘」に達し、眺望が開ける。

夏だから遠く山々は霞んでいる。目の前は上川盆地。緑の農地が広がる。

牛舎らしい建物が見える。「なつぞら」の世界だ。左に目を転ずれば旭川の市街地となる。

「旭川」の地名の由来は、アイヌ語で「チュプ・ペツ」という説がある。「チュプ」は「日」、「ペツ」は川。「日」を「旭」に置き換え「旭川」にしたという事だが、定かではない。

